

# 植物標本庫の充実と、標本活用／データ公開

## 植物標本庫の貴重なコレクション

生物系収蔵庫のなかの植物標本は、開館以来、細見末雄コレクション（日本産維管束植物約 20,000 点）や稲田又男コレクション（シダ植物約 4,000 点）をはじめ、一般の植物研究家や収集家からの寄贈標本が多数寄せられ、開館 20 年までに配架済の使用可能標本が 15 万点を超えました。主なコレクションには、藤本義昭コレクション（日本産イネ科植物及び台湾産維管束植物約 11,000 点）、小林禱樹コレクション（日本産維管束植物約 12,000 点）、竹内純一郎コレクション（シダ植物約 9,000 点）、矢内正弘コレクション（日本産維管束植物約 9,000 点）などがあります。

## 頌栄短大標本とひとくはく標本

2012 年 4 月に、それまで神戸市の頌栄短期

大学で運用されてきた植物標本約 25 万点が、維持管理できる専門家が不在となったことにより、ひとくはくに寄贈されました。これにより所蔵標本は合計 40 万点を超えました。

頌栄短大標本は、ひとくはく標本と一体として、兵庫県産維管束植物全種の目録（研究紀要人と自然 no.10～no.20）の証拠標本になり、また兵庫県版レッドデータブック改訂の際に使われた基礎標本にもなっています。このように頌栄標本とひとくはく標本は、両者合わせて、兵庫県の植物を調べる上でなくてはならない重要な標本群なのです。

## 標本情報の公開とさらなる活用

ひとくはくは、毎年、サイエンスミュージアムネットワーク (S-Net) という国内の標本情報共有ネットワークに標本情報を提供しており、これまでに 23

万件以上が公開されて、日本中のどこからでも標本情報にアクセスできます。また、88,000 件以上は地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) のネットワーク上に英語でアップされ、世界中から閲覧できるようになっています。

ひとくはくの植物標本庫には、いまでも毎年数千点レベルで新規標本が追加され、新産地や絶滅危惧種、新分類群に関する情報等が新しく蓄積されつつあります。数年先に行われる予定の次期レッドデータブック改訂など、今後のさらなる標本利用、データ活用が期待されます。



調査



標本作成



兵庫県産維管束植物（目録）と兵庫県版レッドデータブック



植物標本庫の標本収納状況



標本棚に収納された植物標本



## 植物標本庫の充実と、標本活用／データ公開

代表者：高橋 晃

分担者：高野温子（自然・環境評価研究部）、鈴木武（自然・環境再生研究部）

協力者：黒崎史平（兵庫県立大学客員教授）、福岡誠行（兵庫県立大学客員教授）、兵庫県植物誌研究会 等